■ 肺がん検診Q＆A

Q：肺がんの自覚症状はありますか？

A：早期の肺がんの場合は、むしろ症状がないことのほうが多いのです。症状がないからといって安心はできません。

Q：放射線による心配はないのでしょうか？

A：胸部X線検査による放射線が、人体へ影響を及ぼすほど問題となることはありません。

Q：どのようなところで肺がん検診を受ければいいでしょう？

A：肺の病気の専門である呼吸器科や、胸部X線検査を多く行っている医療機関の受診が勧められます。ただし、地域によっては検診精度を高めるために医師会で診断システムをつくっている場合があります。

Q：もし肺がん検診で精密検査が必要といわれたら？

A：肺がん検診で精密検査が必要となる方は、1000人に20人程度。その20人中、精密検査でがんが見つかるのは1人程度です。安心のためにも、必ず医療機関を受診してください。

Q：検診の費用はいくらぐらいかかりますか？

A：市区町村による住民検診、職場での健康診断や人間ドックなどによって、自己負担額は異なります。自治体の場合は、無料～1000円前後です。

Q：CT検査のほうが、がんがはっきりわかるのでは？

A：放射線量を減少させた低線量CTは、X線よりも小さな陰影を見つけられることから、検診に用いるところが出てきました。ただし、診断が難しく、小さながんが見つかる一方で、がんかどうかわからない病変も多く見つかります。本当にがんで死亡する危険が少なくなるかどうか、現在のところ研究中です。

検診のお申し込み、費用に関しては、下記にお問い合わせください。

このリーフレットは、厚生労働省がん研究開発費「がん検診の評価とあり方に関する研究」班濱島小班と7人の一般市民が共同で作成しました。内容は、研究班が作成した「有効性評価に基づく肺がん検診ガイドライン」に基づいています。

科学的根拠に基づくがん検診推進のページ（http://canscreen.ncc.go.jp/）からもダウンロードできます

肺がんに関する情報
国立がん研究センター
がん情報サービス
http://ganjoho.jp/public/index.html

2025年1月

ご存知ですか？

肺がん検診

年1回、
胸部X線検査を！
喫煙者は
痰の検査も！

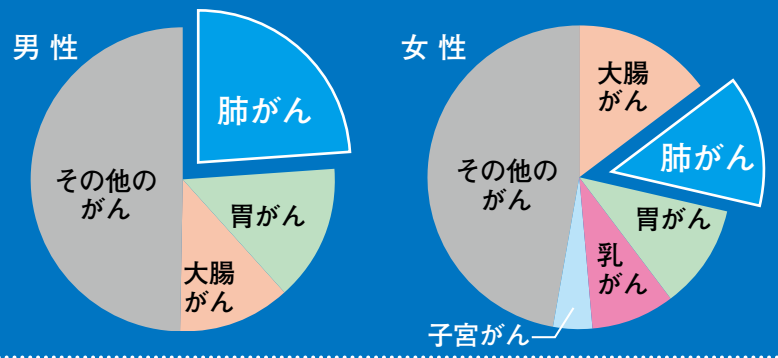
60歳以上で
肺がんのリスクは増加
定年後も続けて
検診が必要です

タバコを吸う人も、
吸わない人も
検診は必要です

早期発見・
早期治療が
あなたの命を
守ります

部位別がん死亡の割合

肺がんによる死亡は年間7万3千人！
がんによる死亡は、男性の第1位、女性の第2位が、肺がんです。



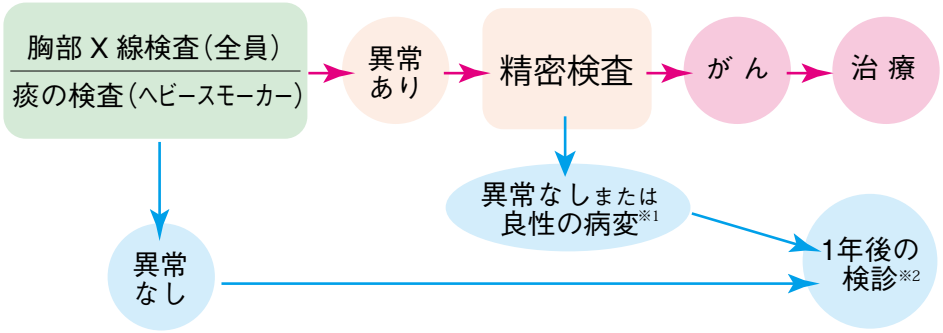
グラフデータ：「国立がん研究センターがん対策情報センター（2014）」

肺がん検診の流れ

40 歳になったら、毎年肺がん検診を受けましょう。

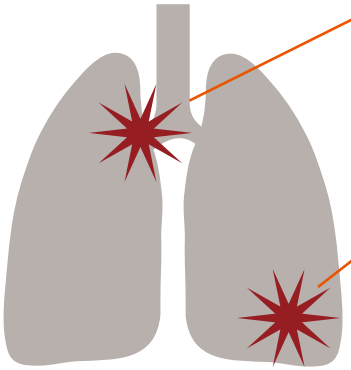
胸部 X 線検査：全員

痰の検査：喫煙指数（1 日に吸うタバコの平均本数×喫煙年数）が 400 ～ 600 以上のヘビースモーカーなど、特にリスクの高い方



※1 良性の病変があるといわれた方は、主治医の指示に従ってください。
※2 毎年受診しないと検診の効果が持続しないので、年 1 回必ず受けることをお勧めします。

肺がんの発生部位と検査



	必要な検査
中心型（肺門型）肺がん 肺中心部の気管支に発生 タバコとの関係が深い	**X 線検査 ＋ 痰の検査**
末梢型（肺野型）肺がん 肺の末梢に発生 タバコとの関係は比較的薄い	**X 線検査**

肺がんとタバコ

肺がんの最大の原因として、タバコの影響が指摘されます。タバコを吸うと肺がんにかかる危険性が 5 ～ 20 倍にはね上がります。喫煙年数や本数が多いほどリスクは高くなり、禁煙してからの年数が長くなるほどリスクは低下します。

受動喫煙※によっても、肺がんのリスクは 1.2 ～ 2 倍に増加します。非喫煙者でも肺がんの原因として決して見過ごすことはできません。

※ 受動喫煙：他人の吸うタバコの煙に曝（さら）され、不本意に吸わされること

肺がん検診を受ける前に知っておいてほしいこと

がん検診を受けることで、がんを早期に発見できれば、体への負担の小さい治療法を選ぶこともできるし、そのがんで死亡する危険も減ります。

がんの疑いがある場合は、精密検査が必要になりますが、必ず受診してください。

がんが正確に診断されずに見逃されたり、検診と検診の間に急速に増大することもあります。また、ゆっくり進行し死亡の原因にはならない「がん」が見つかることもあり、さらなる検査や治療が必要になる場合もあります。